

## 【取組概要】

|           |                                                                                                                                                                                                      |
|-----------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名       | 新潟県立中条高等学校                                                                                                                                                                                           |
| 活動の内容（概要） | ①地域貢献1：胎内市、5大学、21の企業等と連携した「中条高校地域アカデミー」を構築し、地域の課題発見・課題解決 ②地域貢献2：小中学校で絵本の読み聞かせ ③職場体験：30企業でインターンシップ ④地元企業のDX化：企業の課題をプログラミングで解決 ⑤地元店舗の広告宣伝：広告用ポスターとCM動画の作成 ⑥地元食材を使った商品開発：米粉を使った商品開発と販売 ⑦他県の高校生と交流：生徒交流会 |

### 受賞理由

- 胎内市の地域課題と向きあって、新潟リハビリテーション大学など多様な連携の中でそれらの課題を解決していく取組は、地域の活性化とキャリア教育が一元化したものとして高く評価できる。オリジナル商品の開発まで行っているのは素晴らしい。
- 行政、大学、企業等と協定書を交わし連携した「中条高校地域アカデミー」、協力性は満点。21の探究テーマごとに、協力企業団体・協力大学の担当教科がはっきりしている。地域の課題発見・課題解決によって高校のキャリア教育が地域とwin-winの関係を作り、一体感を強固にすることによって地元からの信頼感を増し、生徒の自己効力感も上げている。今後、地元企業のDX化と広告宣伝、商品開発で地元企業にさらに深くかわかり、結果を出すことで地元企業への愛着が高まり、地元で活躍したい人材となっていくのではないかと期待される。恕の心、いいですね。地域と未来をつなぐ学校としてわくわく感が止まらない。
- 地域におけるキャリア教育のプログラムとして、地域貢献、インターン、プログラミング、動画作成、商品開発、他県交流など、とても実践的で実効性があるコンテンツをしっかりとラインナップしており、その効果がうかがえる。それらの体系化により複数つなげた時の生徒への影響や教育効果、地域や企業にもたらす価値などはとても興味深い。

### 連携・協働している機関や団体、組織

#### 【教育関係者（学校、教育委員会等）】

新潟大学、上越教育大学、新潟食料農業大学、新潟リハビリテーション大学、新潟経営大学、新潟職業能力開発短期大学校、山形県立小国高等学校、山梨県立笛吹高等学校、胎内市立中条中学校、胎内市立乙中学校、胎内市立胎内小学校、胎内市立中条小学校、胎内市立黒川小学校、胎内市立ききのと小学校、新潟県教育委員会、胎内市教育委員会

#### 【行政（首長部局等）や地域・社会（NPO法人やPTA団体等）、産業界（経済団体や企業等）】

胎内市、胎内市商工会、新発田市商工会、社会福祉法人 愛光会、胎内市スポーツ推進委員会、県議会議員、胎内市議会議員、胎内美人妻の会、荒惣、佐藤機工、中条グランドホテル、新潟日報社 新発田総局、中条農産、胎内特産品研究会、いちごカンパニー、乙まんじゅうや、胎内市電気工事協同組合、延本石油株式会社追分給油所、胎内市観光協会、高橋興業、小松自動車、ときや旅館、吉田電材蒸留所、NPO法人ヨリシロ、胎内市地域おこし協力隊、インターンシップ先企業30社、広告宣伝実習企業（記載済み企業を除く）17社、ジェイマックソフト、新潟県NIE推進協議会、新潟製粉

### 活動開始の経緯

平成31年度に普通科総合選択制の高校となり、普通科目とともに、専門的な知識や技能を学ぶ科目を選択できるようになった。そして、普通科の学びとともに地域学習をとおして「学びを社会で活用する力」を身につけ、主体的に社会貢献できる人材を育成するカリキュラムにした。コロナ感染症の拡大の影響で地域連携の取組を本格的に開始したのが令和3年度である。地域学習・地域連携をベースにしたキャリア教育に取り組んでいる。

#### **「協力性」についての具体的な取組、工夫している点など**

①令和3年度より、胎内市観光協会の協力を得て、胎内市の11の企業等からテーマごとの講義を実施し、生徒はそれを受けて地域課題の理解と解決策を考え実践した。課題解決を考える際、新潟リハビリテーション大学の学生の援助を受けた。令和6年度からは新潟県の支援を受け活動を拡大発展させ、21の企業等から21のテーマで講義を受け、5大学の教職員と学生17名の伴走支援を受け地域の課題解決に取り組んでいる。なお、地域連携をより充実させるため、令和5年度に胎内市、令和6年度に胎内市商工会、新潟リハビリテーション大学、新潟食料農業大学と連携協定を締結した。

②令和6年度より、小中学校の地域コーディネーターとの連携により、胎内市の小中学校4校の全クラスで朝のSHRの時間に高校生が絵本の読み聞かせを実施した。③2年次にインターンシップを地元企業及び新発田市商工会との連携により実施している。また、胎内市との連携により企業見学バスツアーを実施している。それらにより、働くことの意義や地元のへの愛着を育んでいる。④⑤企業の課題をプログラミングで解決（DX化）及び店舗の広告宣伝ポスター・CM動画作成は、企業と生徒にとってWin-winになっている。⑥令和5年度より生徒が企業のアドバイスを受け米粉を使ったオリジナル商品を開発し、地域イベントで販売につなげた。⑦山形県立小国高校との生徒間交流は、協働イベントにつながっている。

#### **「継続性」についての具体的な取組、工夫している点など**

①胎内市、胎内市商工会、新潟食料農業大学、新潟リハビリテーション大学と連携協定を結び、継続的な連携を構築した。また、中条高校地域アカデミーが長期に継続できるよう、新潟県教育委員会、運営指導委員（複数の大学教職員や胎内市教育長）から、より良い運営のために指導助言してもらっている。また、外部の教育アドバイザーから今年度より2年間伴走してもらうことにより、工夫改善を行っている。②読み聞かせの活動ごとに、訪問先の学校からの意見を聞き、高校生や指導教員のモチベーションにつなげている。また、小中学生が満足できるよう事前の準備を計画的に行っている。③職場体験では新発田市商工会と地元企業との連携、胎内市企業見学ツアーでは、胎内市との連携により継続的に実施できる体制を作っている。④地元企業のDX化ではプログラミング支援を外資業者及び専門学校に委託することで、職員の負担を軽減させ継続できるようにしている。⑤広告宣伝では胎内市観光協会の会員企業に協力いただき、毎年別の企業での実習ができる体制を作っている。⑥米粉を使った商品開発と販売では米粉製造の企業や地域イベントの主催団体との連携体制が構築されており、長期継続ができるようにしている。⑦生徒間交流はスタート初年度であるが、今後、職員の交流を一層密にするとともに、生徒が楽しく協働し、イベントを企画立案し、成功体験を重ねることとで、長期的な継続につなげる。

#### **「実践性」についての具体的な取組、工夫している点など**

①地元企業や団体等から直接現状を聞くことで、胎内市の抱える課題を知り、その解決策を大学と連携して考える。フィールドワークにより、生徒が考えた課題解決の方法を再検討、修正することで、地域で本当に必要な取組になるよう計画している。これらの取組により、生徒は多くの大人や学生と関わり、コミュニケーション能力が向上し、自己肯定感が高まる。②本校生徒が、小中学生のキ

キャリアモデルとなり、地域の子どもたちのキャリア教育につながっている。また、この活動が本校生徒の自己肯定感、挑戦する心を育てている。③地元企業を実際見たり、働く経験をすることで、キャリア探究が進み、進路決定に大いに影響する。また、職場体験により体験先企業への入社を果たすなどの事例もある。④⑤学校での学習内容を生かして、一般企業のDXを推進するプロジェクトへの参加や広告宣伝の仕事を行う中で、企業の担当者から要望が出され、取組に対しての改善点を指摘されるなど、アントレプレナーシップ教育となっている。⑥米粉発祥の地である胎内市の米粉を使い、生徒が商品開発を行っている。開発した商品を地域のイベントで販売することにより、生徒は多くの地域の方と関わり、地域連携による地域貢献になっている。⑦山形県立小国高校及び、山梨県立笛吹高校と生徒間交流をしている。両校とも地域連携先進校であり、キャリア教育の充実に大きな効果がある。

#### 「発展性」についての具体的な取組、工夫している点など

①「中条高校地域アカデミー」では現在21の地元企業や団体、地域おこし協力隊、5つの大学等と連携し、県の事業に取り組み、地域から信頼される公立高校を目指し活動を行っている。この地域学習を主としたPBL型授業と、ルーブリック評価により生徒自らが成長を感じ、自己肯定感が高まるよう工夫している。この活動の実践と発信により、中条高校と連携したい企業やNPO、地域のボランティア団体からオファーもきている。②現在2つの中学校、4つの小学校で読み聞かせを実施しており、児童・生徒・職員からとても高い評価をいただいている。今後、胎内市の他の小中学校でも実施する可能性がある。③生徒が地元企業の魅力を発見し、地元への愛着が増すことで、地域で活躍する人材になることが期待できる。④⑤本校の地元企業への貢献が地域で周知され、地域から本校への期待や信頼が高まっていると感じている。胎内市商工会や企業とつながったことにより、今後、企業のDXや事業所の広告宣伝について、事業所から依頼がくることも期待できる。⑥商品開発では、地域でのオリジナル商品販売の成果により、将来的には生徒が作った商品を地元商店での販売も期待できる。⑦本校の文化祭に小国高校生が参加した。笛吹高校との合同企画も検討しており、地域学習、地域連携の取組をさらに発展させたい。

#### 学校現場の評価・感想・コメント

- ・中条高校地域アカデミーを立ち上げたことにより、胎内市、事業所、大学とさらに強い繋がりができ、探究活動の充実と、地域とよりよい関係が築いていけると思う。
- ・絵本の読み聞かせは、思った以上に中学生、中学校職員に好評で、生徒達が一生懸命練習した甲斐があった。
- ・以前から地域学習に力をいれていたが、今年度の多くの変革でイノベーションの年になった。
- ・職場体験では、約30の事業所に受け入れていただき、学校ではできない実務経験をさせていただいている。地元企業の人材確保にもつながって行きたい。
- ・令和5年度より地元企業のDX化を行っているが、生徒にも企業にもWin-winの活動になった。
- ・広告宣伝では、思った以上にポスターの宣伝効果があり、SNSのXではインプレッション14万回の大反響のポスターもあった。
- ・米粉を使った商品開発では、今まで新潟製粉の方から米粉に関する講義をしていただいていたが、今年度より米粉フェスタに参加することができた。今後も胎内市の米粉を宣伝していきたい。
- ・様々な新規活動を行っているが、生徒の成長に重点を置くものとしてやっていきたい。

- ・地域学習・地域連携により、生徒が自己肯定感をあげ、前向きに物事に挑戦する力を伸ばす取組としたい。
- ・今年度より、地域協働部という部活動も創設し、新規の地域連携がやりやすくなった。
- ・生徒以上に教職員が生徒の可能性を信じることが重要だ。

#### **関係諸機関（行政・産業・地域団体等）からの評価・感想・コメントなど**

##### ○中条高校地域アカデミーについて

- ・自分にとって刺激的で学びのある体験だったのでありがたいです。（大学生）
- ・活発に活動されていた生徒の皆さんに感動した。（大学生）
- ・大学生にとって大変良い経験になったと思います。（大学教授）
- ・大学生と高校生との交流の中で新しいアイデアが生まれ活発な活動である。（大学教授）

##### ○絵本の読み聞かせについて

- ・感動して涙がでました。毎週来てもらいたいくらい。（中学校職員）

##### ○企業のDX化について

- ・生徒のプログラミングに対する理解力や問題解決能力が高い。（企業のデジタルアドバイザー）

##### ○広告宣伝実習について

- ・作ってもらったポスターのおかげで売り上げが伸びた。（事業者）
- ・ポスターとCMを作ってもらいたい（観光協会の会員企業）
- ・生徒が作ったポスターをSNSで紹介したら14万回閲覧され大反響があった。（事業者）

##### ○各種活動全般について

- ・中条高校が精力的に新しい取組を実践し、地域と関わり、学校がどんどん活性化している（地域）
- ・胎内市内企業との連携や「中条高校地域アカデミー」など、地元企業を実践の場とした探究的な学びは、働くことの意義を理解し、地域への愛着を深めることにつながっている。また、中条高校の生徒が地元企業に貢献する姿は、市内小中学生に良好な影響を与えるだけでなく、地域住民の関心と期待の向上にも大きく寄与している。（胎内市教育委員会）



オリジナルスイーツ：もちり米粉スイーツポテト



広告宣伝実習でのポスター



山形県立小国高校で：両校の生徒による協働イベントの打合せ